

ワーキンググループの今後の進め方

- ・分野横断的技術政策の方向性について、当WGにて令和6年度1年をかけて議論する。
- ・8月頃の間とりまとめに向けて、引き続き異分野の有識者からヒアリングを行いたい。

1. 今年度WGの進め方(案)

- | | | |
|-------|-------|--|
| 6月14日 | 第1回WG | ○論点整理
○委員からの話題提供
『開発をともなう技術の社会実装における課題について 一橋梁を事例として一』
(春日委員) |
| 7月4日 | 第2回WG | ○委員からの話題提供
『技術の社会実装について(デジタル技術) 一建設業務に関する三次元データの作成、流通、管理の現状と今後の可能性一』(須崎委員)
○異分野の有識者からのヒアリング
『スマート農業の普及に向けたクボタの取組み』
(株式会社クボタ 取締役専務・研究開発本部長 木村様) |
| 7月 | 第3回WG | ○委員からの話題提供
『技術の社会実装について(建築分野)(仮)』(野城委員)
○異分野の有識者からのヒアリング
『社会的信頼性のための品質確保(仮)』
○これまでのWGの論点整理 |
| 8月 | 第4回WG | ○中とりまとめ |
| 9月以降 | | 引き続きWGを開催し残りの議題を議論 |
| 今年度中 | | とりまとめ |

2. 成果について

WGで得られた成果は、第36回技術部会(第4四半期を予定)へ報告し、次期技術基本計画に反映する。

3. 次年度以降(次期技術基本計画策定以降)

必要に応じて、WGの開催を検討する。